公民科（公共）　学習指導案

日　　時　令和８年２月 19 日（木）
　　第１校時　17：10～17：55
学 校 名
対　　象　１ 学 年　　名
会　　場
授 業 者

１　単元名

「財政の役割と社会保障の課題」　教科書：『高等学校　公共』（帝国書院）

２　単元の目標

・　財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。
・　現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる。
・　幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
・　財政の役割と社会保障の課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 ②　現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。	①　幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	①　財政の役割と社会保障の課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4　指導観

⑴　単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成 30 年３月告示）第２章　第３節　公民　第１　公共

> ２　内容
> B　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち
> 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
> ア　次のような知識を身に付けること。
> (ｳ)　職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。
> (ｴ)　現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けること。
> イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
> (ｱ)　アの(ｱ)から(ｳ)までの事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現すること。
> ３　内容の取扱い
> ⑶　内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。
> カ　内容のＢについては、次のとおり取り扱うものとすること。
> (ｶ)　アの(ｳ)の「職業選択」については、産業構造の変化やその中での起業についての理解を深めることができるようにすること。「雇用と労働問題」については、仕事と生活の調和という観点から労働保護立法についても扱うこと。「財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」については関連させて取り扱い、国際比較の観点から、我が国の財政の現状や少子高齢社会など、現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて扱うこと。「金融の働き」については、金融とは経済主体間の資金の融通であることの理解を基に、金融を通した経済活動の活性化についても触れること。「経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）」については、文化や宗教の多様性についても触れ、自他の文化などを尊重する相互理解と寛容の態度を養うことができるよう留意して指導すること。

を受けて設定した。

本単元は、経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化に関する理解を基に、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重とを共に成り立たせることが必要であることについて理解できるようにすることを主なねらいとしている。

これらを踏まえ「財政の役割と社会保障の課題」という主題を設定し、学習上の課題として「財政悪化の解消と社会保障の充実のために、私たちはどのように考え行動すればよいだろうか。」という単元を貫く問いを設定する。単元のねらいを達成するために、①政府の役割と財政の機能、②日本の

財政の現状と課題、③日本の社会保障制度のしくみと財政に与える影響、④社会保障制度の課題等の内容を取扱う。

これまで学習した経済の仕組みに関する知識を生かしながら学習を進めるとともに、次の大項目「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」へと学びをつなげていくための見通しをもつことができるようにする。

中学校までの学習との連続性については、小学校第６学年において、租税の役割や少子高齢化について扱っている。また、中学校公民的分野において、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、財政及び租税の役割について扱っている。これまでの学習で身に付けた知識及び技能、思考力、判断力、表現力を十分に活用し、既習事項を引き出したり、生徒の身近な事象を取り上げたりしながら、生徒が興味・関心をもって学習を展開できるようにする。

⑵　生徒観

本校は夜間定時制高等学校で、中学校で不登校だった生徒や、中学校の学習内容の定着が十分でない生徒が少なくない。また、言語理解や処理速度に不安のある生徒等、様々な課題を抱えた生徒が在籍している。そのため、生徒理解を深め、生徒一人一人に応じた対応や配慮が必要である。

本学級は、生徒数 13 名と少人数である。発問には積極的に答えるなど、意欲的に学習に取り組む生徒が多い。しかし、思考力・判断力を要する学習活動や、短い時間で考えをまとめ、表現することに苦手意識をもっている生徒が少なくない。そのため、個人作業の後にペア又はグループで対話を通した協働的な学びの場面をつくり、自分の考えをまとめることができるようにするとともに、他者の意見から新たな視点や考え方を補い、より深い学びに到達できるようにする。

⑶　教材観

本学級には聞き取りを苦手としている生徒が在籍しているため、言葉での発問・指示等の聴覚情報に合わせて、板書・スライド・ワークシート等を組み合わせ、視覚情報での発問・指示も活用する。

また、毎時間、教科書や自作のワークシートに載せた資料を活用し、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせられるようにする。第４時では、財政や社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題について、多面的・多角的に考察できるよう、①日本の公債残高に関わる視点、②社会保障関係費に関わる視点、③年金受給に関わる視点等、複数の資料を活用する。資料を読み取ることを苦手としている生徒もいるため、読み取る際の視点を問いによって与えるなどの工夫を行う。

さらに、ＯＰＰＡ（One Page Portfolio Assessment）を活用した振り返りシートにより学習履歴を可視化することで、生徒が自分の学びを振り返り、自己評価を行うことができるようにする。毎授業後に回収し、授業者が学習者の記録を見て、授業改善につなげたり、生徒にフィードバックを行い学習の調整につなげたりできるようにする。

５　年間指導計画における位置付け

本単元の年間指導計画における位置付けを以下に示す。

単元名	時数
Ａ　公共の扉	
⑴　社会の中の私たち	９時間
⑵　思想から学ぶべきこと	４時間
⑶　私たちの社会の基本原理	９時間
Ｂ　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	
⑴　私たちと法	12 時間
⑵　私たちと政治	14 時間
⑶　私たちと経済	18 時間

・　市場経済のしくみと金融	（６時間）
・　財政の役割と社会保障の課題【本単元】	（４時間）
・　産業の変化と雇用・労働問題	（４時間）
・　国際経済の動向と格差の是正	（４時間）
C　持続可能な社会づくりの主体となる私たち	４時間

６　単元の指導計画と評価計画（全４時間）

○：「評定に用いる評価」●：「学習改善につなげる評価」

時	目標	○　学習内容　・　学習活動	評価規準			
			知	思	主	評価方法等
第１時						
【単元を貫く問い】 「財政悪化の解消と社会保障の充実のために、私たちはどのように考え行動すればよいだろうか。」						
	市場経済における、政府の役割と財政の機能について理解する。	○　単元全体での学びの見通しを立てる。 ・　単元を貫く問いに対する予想をワークシートにまとめる。 ○　市場における政府の役割、財政の機能、財政政策のしくみと経済に与える影響について理解する。 ・　市場における政府の役割や、三つの財政の機能（資源配分機能、所得再分配機能、景気の安定化機能）について、教科書を参考にワークシートにまとめる。 ・　「財政政策と景気の自動安定化装置」等の諸資料を活用して、財政と景気の関係についてワークシートにまとめる。	○		●	アー①（ワークシートの記述分析） ウー①（ワークシートの記述分析）
第２時	日本の財政の現状と課題についての諸資料から、情報を収集し、読み取り、まとめる。	○　諸資料から、情報を収集し、読み取り、まとめ、日本の財政の課題について捉える。 ・　「歳入・歳出」「税制の種類」等の諸資料を活用して、財政の歳入と歳出の内訳、租税の種類についてワークシートにまとめる。 ・　「日本の公債残高の推移」等の諸資料を活用して、日本の財政の課題について読み取り、ワークシートまとめる。	○			アー②（ワークシートの記述分析）
第３時	日本の社会保障制度のしくみと財	○　日本の社会保障制度のしくみを捉える。	○			アー①（ワークシー

	政に与える影響について理解する。	・「日本の社会保障制度」の表を活用し、社会保障制度の役割や種類をワークシートに分類する。 ○　社会保障制度が財政に与える影響について捉える。 ・「社会保障給付費の内訳」「社会保障給付費の財源」「歳出における社会保障関係費の推移」等の資料を活用して、社会保障制度が財政に与える影響についてワークシートにまとめる。				トの記述分析）
第４時 【本時】	財政悪化の解消と社会保障の充実について、幸福や公正に着目して、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察し、表現する。 財政の役割と社会保障の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に追究する。	○　日本の財政や社会保障に関わる課題を捉える。 ・　日本の財政や社会保障に関わる諸資料から情報を読み取る。 ○　日本の財政や社会保障について、課題解決の方向性を協働して考察し、表現する。 ・　日本の財政や社会保障に関わる諸資料を基に、日本の財政や社会保障の課題について、個人やグループで課題解決の方向性を考察し、ワークシートにまとめる。 ○　財政悪化の解消と社会保障の充実について考察し、表現する。 ・　単元を貫く問いに対して、単元全体の学習を踏まえ、ワークシートに自分の言葉でまとめる。 ○　単元の学習を振り返る。 ・　単元の学習への自身の関わりを振り返り、自分にとっての本単元の学習の意義についてワークシートにまとめる。 ・　本単元を踏まえて、自らが関心をもち、問い続けていく諸課題についてワークシートにまとめる。		○	○	イ－① （ワークシートの記述分析） ウ－① （ワークシートの記述分析）

7　指導に当たって

班テーマ「指導と評価の一体化を実現する単元計画の作成
～多面的・多角的な考察を促す資料の精選・効果的な活用を基にして～」

【テーマに迫るための手立て】

⑴　ＯＰＰＡ（One Page Portfolio Assessment）に基づく振り返りシートの活用

・　各時間の学習課題に対する回答を一枚の振り返りシートにまとめることで、学習内容を定着させ、その積み重ねを単元を貫く問いへの最終的な解答へとつなげる。また、授業者は毎時間、シートを回収して、その記述を基に授業内容や指導方法を改善し、指導と評価の一体化を図る。さらに、フィードバックを行うことで、生徒は自身の学習を調整できるようにする。

・　単元の初めに立てた単元を貫く問いへの予想と各時間の課題の解答、最終的な単元を貫く問いへの解答を一枚のシートで振り返ることにより、自身の学習の経過と解答の変化を俯瞰し、自らの理解の進展と思考の深まりを客観的に実感できるようにする。

⑵　多面的・多角的な考察を促す資料の活用

・　第４時では、以下の資料を活用し、財政や社会保障の充実・安定化に関わる現実社会の事柄や課題について、幸福や公正などに着目するとともに、合意形成を視野に入れ、多面的・多角的に考察できるようにする。

①　日本の公債残高に関わる視点「日本の公債残高の推移」

②　社会保障関係費に関わる視点「歳出における社会保障関係費の推移」

③　年金受給に関わる視点「納める保険料と受給できる年金額の見通し」
「高齢者世帯の収入の内訳」「高齢者世帯の貯蓄額」

８　本時（全４時間中の第４時）

⑴　本時の目標

・　財政悪化の解消と社会保障の充実について、幸福や公正に着目して、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察し、表現する。

・　財政の役割と社会保障の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に追究する。

⑵　本時の展開

時間	○　学習内容　・　学習活動	指導上の留意点、配慮事項	評価規準 （評価方法）
導入 （５分）	○　本時の学習課題を確認し、学習への見通しを立てる。 ・　本時の学習課題を黒板で確認する。 本時の学習課題【単元を貫く問い】 「財政悪化の解消と社会保障の充実のために、私たちはどのように考え行動すればよいだろうか。」		
展開① (10 分)	○　日本の財政や社会保障に関わる課題を捉える。 ・　グループを作り、【政府】【若者】【高齢者】の立場について担当を決め、①～⑤の資料から情報を読み取り、ワークシートの問いに答える。 資料①「日本の公債残高の推移」 資料②「歳出における社会保障関係費の推移」 資料③「納める保険料と受給できる年金額の見通し」 資料④「高齢者世帯の収入の内訳」 資料⑤「高齢者世帯の貯蓄額」	・　グループの人数は４人程度とする。 ・　資料①は第２時で、資料②は第３時で使用したことを伝え、既習事項や資料読み取りの技能を引き出せるよう促す。 ・　資料①～⑤について、以下の点に気付くことができるようにする。 【資料①】日本の公債残高と公債依存度が年々増え続けていること。 【資料②】日本の社会保障費が増え続けていること。 【資料③】世代間で納める保険	

		料と受給できる年金額に差があること。 【資料④･⑤】高齢者世帯の主な収入源が年金受給であること。老後に必要な貯蓄額に半分以上の世帯が届いていないこと。 ・　資料の読み取りが進んでいない生徒には個別で助言を行う。	
	○　【政府】【若者】【高齢者】それぞれの立場から見た望ましい財政政策について考察し、表現する。 ・　自身が読み取った資料を基に、それぞれの立場を踏まえて、財政政策の中で望ましいと思うものをワークシートの項目から選び、理由についても記入する。	・　ワークシートの項目を選ぶ際には、【政府】【若者】【高齢者】それぞれの立場に立って選択することを強調するとともに、それぞれの立場における幸福及び公正がどのようなことなのかを考慮するように促す。	
展開② (15 分)	○　日本の財政や社会保障について、課題解決の方向性を協働して考察する。 ・　グループ内で、自身が担当した資料の内容を説明し、問いの答えを共有する。 ・　それぞれの立場を踏まえて、財政政策の中で望ましいと思う項目を理由とともに説明する。 ・　ワークシートのマトリックス表について、グループで財政や社会保障の在り方として望ましいと考える項目を選び、選択した理由をワークシートに記入する。 ・　グループで選んだマトリックス表について、選択した理由を学級全体に発表する。	・　グループ内での発表時間は、一人１分程度と指示する。 ・　グループに伝える際には、それぞれの立場になりきって説明するよう伝える。 ・　各グループの発表時間は、１分程度と指示する。	
まとめ (15 分)	○　財政悪化の解消と社会保障の充実について考察し、表現する。 ・　【単元を貫く問い】に対して、単元全体の学習や、他の生徒と協働して考察したことを踏まえ、振り返りシートに自分の言葉でまとめる。 ○　本単元の学習を基にして、よりよい社会の実現を視野に、学んだこと、これからも考え続けたい現	・　振り返りシートの【単元を貫く問い】【学習の振り返り】に対し、自らの考えをまとめる際は、第１～４時までの学習を振り返るよう助言する。	イ－① （振り返りシートの記述分析） ウ－① （振り返りシートの記述分析）

	代の課題についてまとめる。 ・　振り返りシートの【学習の振り返り】に、本単元で学んだことや、これからも考え続けたい現代の課題について記述する。		

※　本時の評価の基準　イ―①

A（十分満足できる）	B（概ね満足できる） ★到達目標	C（目標に達していない）
財政悪化の解消と社会保障の充実について、幸福や公正に着目して、合意形成や社会参画を視野に入れながら、自らの考えと行動を、財政の面と社会保障の面とを関連させて記述している。	財政悪化の解消と社会保障の充実について、幸福や公正に着目して、合意形成や社会参画を視野に入れながら、自らの考えと行動を記述している。	財政悪化の解消と社会保障の充実について、幸福や公正に着目して、合意形成や社会参画を視野に入れながら、自らの考えと行動を記述できていない。

⑶　板書計画

単元を貫く問い
「財政悪化の解消と社会保障の充実のために、
私たちはどのように考え行動すればよいだろうか。」

スクリーン

⑷　授業観察の視点

ア　ＯＰＰシートで毎時間、取り組んでいる学習課題への解答や、それについての授業者によるコメント等のフィードバックは生徒が単元を貫く問いに取り組む上で効果的であったか。

イ　本時で考察に用いた資料は、生徒が人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考察する上で有効であったか。